



レジェンド エクスプレス ツアー



西武、巨人の「レジェンドOB」が西武鉄道電車内でトークショー開催 軽快トークで「場外戦」！？

6/7(火) 18:38 配信 19



ツアー貸切電車でトークショーを行った西武OBの石毛宏典氏（提供写真）

西武鉄道と西武トラベルは、7日からの西武—巨人3連戦（ベルーナドーム）に合わせ、それぞれの球団で活躍した「レジェンドOB」がトークショーを行うツアー貸切電車を、池袋駅から西武球場前駅まで運行した。参加したOBは、主に1970年代～2010年代に活躍した総勢12人で、各日10人（両チーム各5人）が40000系車両（10両編成）の各担当号車に乗車。3連戦開催中、毎日行われる。

この日初日を終え、西武OBの石毛宏典氏と巨人OBの角盈男氏が取材に応じた。石毛氏が「巨人相手だと力が入る。起爆剤にしてライオンズの底力を見せてほしい。3連勝いきましょう」と語ると、「空回りしろ！」と突っ込んだ角氏は「交流戦を制する者がペナントを制す。3連勝しないといけないので今日はまず勝ちます」と盛り上げた。

ツアー貸切電車では、両チームにちなんだMCの進行でトークショーを行うほか、レジェンドOBとの写真撮影が行われた。また、乗車記念品として号車担当レジェンドOBのサイン色紙などを本人から直接贈呈された。

▼参加OB （西武）平野謙氏、松沼博久氏、石毛宏典氏、鈴木健氏、西崎幸広氏、（巨人）鹿取義隆氏、定岡正二氏、槇原寛己氏、岡崎郁氏、鈴木尚広氏、村田真一氏、角盈男氏

平野謙氏、鹿取義隆氏、定岡正二氏ら西武と巨人レジェンドOB 9人が貸し切り電車でファンと交流

6/7(火) 18:43 配信 33  

日刊スポーツ



ファンと貸し切り電車ツアーで交流した西武、巨人のOB。上段左から松沼博久氏、平野謙氏、槇原寛己氏、村田真一氏、定岡正二氏、下段左から西崎幸広氏、石毛宏典氏、角盈男氏、鹿取義隆氏

西武と巨人のOB9人が7日、西武鉄道の貸し切り電車でファンと交流する「レジェンド・エクスプレス・ツアー」に参加した。同日からの交流戦、西武対巨人3連戦（ベルーナドーム）に合わせたイベント。池袋駅から西武球場前駅まで乗車し、トークショーや記念撮影を行った。

参加したのは西武OBが平野謙、松沼博久、石毛宏典、西崎幸広の4人。巨人OBが鹿取義隆、定岡正二、槇原寛己、村田真一、角盈男の5人（敬称略）。

石毛氏は「久々にファンの目の前で生の声を聞かせてもらい、発信させていただいて、いい気分を味わえた。西武は故障者が多くてなかなかフルメンバーで組めない状況ですが、巨人戦という起爆剤をもらって、辻監督中心にライオンズの底力を発揮してほしい」と笑顔を見せた。

角氏は「交流戦を制するものはペナントを制すと言っても過言ではありません。うち（巨人）はちょうどいいところ（順位）にいますんで、1位のヤクルトを追いつけ、追い越すには、ここで3連勝しないといけない。頑張ってもらいたい」と後輩たちにエールを送った。

80年代の「球界の盟主をかけた戦い」を彩ったレジェンドOBが集結！ 西武vs巨人の交流戦に先駆けた「レジェンド・エクスプレス・ツアー」が初開催

6/8(水) 6:10 配信



THE DIGEST



ツアー用の特別列車を前に集合写真を撮影するレジェンドOB（前列左から西崎、石毛、角、鹿取。後列左から松沼、平野、榎原、村田、定岡）。写真：THE DIGEST編集部

6月7日からベルーナドームにて西武vs巨人の交流戦3連戦が開催されるのに合わせ、西武鉄道は各試合に先駆けて「レジェンド・エクスプレス・ツアー」と銘打ったイベントを初めて開催。両軍の往年の名選手たちが集結し、ファンと交流する。

【動画】“盟主対決”の交流戦は名勝負。愛斗が直球を捉えて4号先制弾！

「レジェンド・エクスプレス・ツアー」は、池袋駅から西武球場前駅まで、ツアー専用の特別列車が運行するイベント

だ。10両編成の各車両には両軍のレジェンドOBが1人ずつ乗り込み、ツアー参加者とトークショーや記念撮影を行った。初日となる7日は、西武のレジェンドOBとして平野謙、松沼博久、石毛宏典、西崎幸広、巨人のレジェンドOBとして鹿取義隆、定岡正二、榎原寛己、村田真一、角盈男の各氏が参加した。

ツアー終了後に取材に応じた石毛は「久々にファンの皆さんと交流できて楽しかった」と満面の笑み。「フィールドとスタンドの距離感ではなく、ファンの皆さんとこれだけ近い距離で交流できてよかった。現場から離れてかなり年も取ってしまったが、年を取った年野の野球界の見方や、野球界の未来がどうなってほしいのかについて語る事ができて、物凄く有意義な時間だった」と振り返った。

両軍のOBが集結して、このようなイベントが行われるのはかなり珍しいということもあり、企画にも携わった角は「少しでも今のプロ野球を盛り上げたいと初めての試みにチャレンジしてみたが、とても良かった」と会心の表情だった。

また、2人が現役だった1980年代の巨人対西武の日本シリーズに話が及ぶと、石毛は「球界の盟主である巨人をどう倒そうかと試行錯誤する、非常に刺激のある戦いだった」と述懐。「逆転あり、サヨナラありの好ゲームを最高の檜舞台でやる事ができたのは、プレーしていた僕らも楽しかったし、お客さんも楽しんでくれたんじゃないかな。そういう面では

野球の魅力を発揮できた好敵手だった」とライバルに称賛を惜しまなかった。

これには角も「当時の西武は非常に脅威で、僕らも打倒・西武で臨んでいた。球界の盟主はどちらかと言うと西武の方だったんじゃないかな(笑)」と応じて、「球界の盟主をかけた戦い」と言われた宿命の対決に思いを馳せていた。

「レジェンド・エクスプレス・ツアー」は、3連戦が終了する9日までの3日間開催され、総勢12名のレジェンドOBが参加し、両軍の対決を盛り上げる。

石毛宏典さんや角盈男さんも…往年のレオ・G戦士、ファンと一緒に電車旅

6/8(水) 11:41 配信 26  

読賣新聞 オンライン



ツアーに参加した西武と巨人のレジェンドOBたち（7日、所沢市で）

ベルーナドーム（埼玉県所沢市）で7日始まったプロ野球セ・パ交流戦西武—巨人3連戦に合わせ、両チームの黄金時代を築いたOBたちがファンと一緒に貸し切り電車に乗るツアーが行われた。初日は9人のOBと約80人のファンが各車両に乗車。西武池袋—西武球場前駅間の車中で、往年のスター選手たちとのトークや撮影会などを楽しんだ。

西武の黄金時代を引っ張った石毛宏典さん（65）と同じ車両だった所沢市の男性（45）と妻（38）は「現役時代の話聞いて思い出になった」と感激した様子。石毛さんも「久しぶりにファンの声を直接聞き、ありがたさを感じた」。巨人の抑えのエースだった角盈男さん（65）も「楽しい一日を過ごせた」と笑顔を見せていた。

ツアーは西武鉄道などが企画し、主に1970～2010年代に活躍したOB12人が参加している。8、9日も開催される予定だ。

いざ出発！球界レジェンドOBと西武x巨人交流戦へ 西武鉄道貸切列車運転



配信：2022/06/08 08:03

イベント 団体列車・ツアー



参加したレジェンドOB 後列：松沼博久氏、平野謙氏、槇原寛己氏、村田真一氏、定岡正二氏 前列：西崎幸広氏、石毛宏典氏、角盈男氏、鹿取義隆氏
©RailLab ニュース

プロ野球「日本生命セ・パ交流戦」が2022年6月12日(日)まで、全国各地で行われています。西武鉄道は6月7日(火)から6月9日(木)まで、埼玉県所沢市のベルーナドームでの埼玉西武ライオンズ対読売ジャイアンツ(巨人)の交流戦試合にあわせ、貸切電車「レジェンド・エクスプレス・ツアー」を運行。初日となる6月7日(火)の様子を報道陣に公開しました。

「レジェンド・エクスプレス・ツアー」は西武40000系電車を貸切り、池袋から西武球場前までの約1時間を両球団で活躍した総勢12名のレジェンドOBとともに乗車する夢のようなツアー列車です。初日は事前に申し込みをした参加者約80名が乗車、車内では、レジェンドOBによるトークショー、サイン色紙のプレゼント、記念写真撮影などが開催され、往年のプロ野球選手OBとの楽しいひとときを過ごしていました。



ファンの間近で車内でアナウンスする角氏
©西武鉄道

初日に参加したのは、西武ライオンズ側が平野謙氏、松沼博久氏、石毛宏典氏、西崎幸広氏、読売ジャイアンツ側は鹿取義隆氏、定岡正二氏、楨原寛己氏、村田真一氏、角盈男氏の9名です。

鉄道を使用したツアーの開催について、巨人OBの角氏は、企画段階から関わってきたことを明かし「とにかく、球界を盛り上げるために、レジェンドOBの力を借り、ファンとの距離の近い交流を深めることができました。今回チャレンジができて本当によかったです」とコメント。



取材に応じた角氏と石毛氏
©RailLab ニュース

また、西武OBの石毛氏は「このような企画は初めてで、広い球場とは異なり、身近にファンと接することができ、新鮮で有意義な時間を過ごせました」と語っていました。

札幌からツアーに参加した40代の女性グループは、「とにかく幸せ！小学生の頃から定岡さんのファンで、身近に交流ができ、大満足です。またこの企画があったら絶対に参加します！」と、興奮冷めやらない様子で熱く語っていました。

6月8日(水)については読売ジャイアンツ側が榎原寛己氏に代わって岡崎郁氏が、6月9日(木)も榎原寛己氏に代わって岡崎郁氏と、村田真一氏に代わり、鈴木尚広氏が参加予定です。

西武と巨人のレジェンドOBとドームへの旅を楽しむ貸切電車。石毛宏典と角盈男が“らしさ”爆発の受け答え！

西武トラベル「レジェンド・エクスプレス・ツアー」

野村シンヤ 2022年6月8日 17:00

リスト

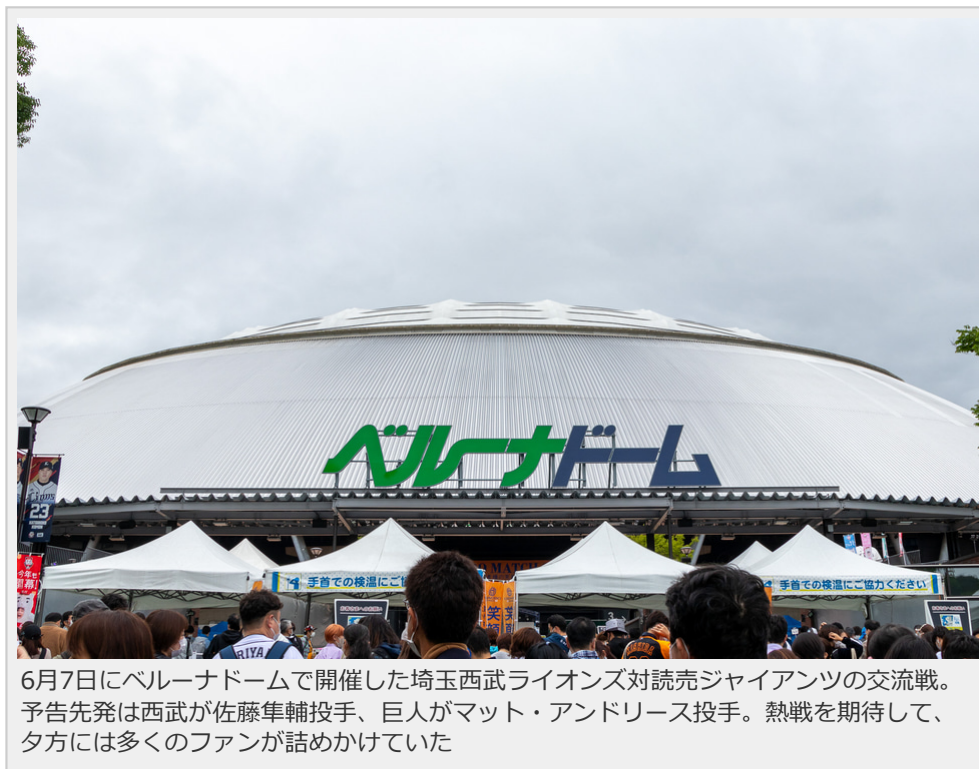
 8枚の写真

2022年6月7日～9日 開催



2022年もプロ野球の交流戦が5月24日から開始され、6月12日まで各地で熱戦が繰り広げられる。普段は対戦しない両リーグのチームが顔を合わせることから、ペナントレースとは異なる試合に心躍るファンも多いはずだ。

その交流戦をさらに盛り上げるために企画されたのが西武トラベルの「レジェンド・エクスプレス・ツアー」で、埼玉西武ライオンズ対読売ジャイアンツの交流戦開催に合わせて、6月7日～9日の3日間にかけて行なう。このツアーの目玉は、貸切電車にそれぞれの球団で活躍したレジェンドOBがツアー客と一緒に乗車し、交流しながら西武池袋駅から試合開催地ペルーナドームのある西武球場前駅まで約1時間の旅を楽しめるというところにある。



今回のツアーに参加するレジェンドOBは、主に1970年代～2010年代に活躍した総勢11名で、各日9名（両チーム各5名）が40000系車両（10両編成）の各担当号車に乗車する。ツアー客は希望する号車を指定して申し込めるようになっていた。初日に参加したのは、西武側が平野謙氏、松沼博久氏、石毛宏典氏、西崎幸広氏で、巨人側が鹿取義隆氏、定岡正二氏、槇原寛己氏、村田真一氏、角盈男氏だ。

ツアー行程のなかには、レジェンドOBによるトークショー、レジェンドOBとの写真撮影などが組み込まれており、西武球場前駅に到着した際は、各号車ごとに当日参加したレジェンドOB全員と団体記念撮影（開催後にWebから購入可能）もできるようになっている。このほか、乗車記念品として、マフラータオルと乗車車両のレジェンドOBがサインした色紙も用意されている。旅行代金は1名1万2000円。



車内でファンと交流を楽しむ石毛宏典氏と角盈男氏（写真提供：西武鉄道）

レジェンドOBの代表インタビューでは、石毛宏典氏と角盈男氏がツアーの感想などを語った。

——本日のレジェンド・エクスプレス・ツアーはいかがでしたか？

石毛氏：久々にファンの目の前で生の声で発信させてもらって、久々にいい気分を味わえたことに感謝しています。いろいろな質問を受けました。野球ファンってありがたいなと。そのファンの方に少しでも喜んでいただけるような時間を作り出せたのではなかろうかと思います。本当にいい一日、いい時間を過ごせました。ありがとうございました。

角氏：とにかく今のプロ野球に少しでも応援ができないか。レジェンドが協力してこういったものが実現し、非常に楽しい一日を過ごせました。

——3連戦の展望はどのように見えますか？

角氏：交流戦を制するものがペナントを制すると言うのも過言ではありません。西武ライオンズはちょっとチャンスがないかなと（笑）。今、うち（巨人）はいい位置にいるので、1位のヤクルトに追い付くには今回は3連勝しなくてはいけないかなと。頑張ってください。原監督、よろしくお願いいたします。

石毛氏：西武ライオンズは故障者が多くてですね、なかなかフルメンバーで組めない状況ですが、ここで若林が台頭してきたりしてですね、一つ一つ上向いていると思います。やっぱり巨人勢相手だと力が入りますので、なんかちょっと低迷していますが、巨人戦という起爆剤をもらってですね、辻監督中心にライオンズの底力を発揮してほしいですね。3連戦、3連勝と行きましょう！

——車内で行なうイベントはめずらしいと思うのですが、いかがでしたか？

石毛氏：いやー、初めてですよ。やっぱりグラウンドとスタンドは距離がありましたよね。この年になって、近いところでいろいろな話ができただのはよかったです。多少現場を離れて年はいってますけど、年いったなりの野球界の見方だとか歴史とかがあるので、あるときは昔で今は未来に向けて、どんな野球界になってほしいのかなというような交流を深めることができたので、すごい有意義な時間でした。

角氏：僕の方は企画の段階から入っていたのですが、とにかく今のプロ野球を応援したいという気持ちです。レジェンドの力を借りてファンとの距離を縮めて、今のプロ野球をもっとよくしたいという想いで、その手助けができればと。初めての試みでしたが、チャレンジしてよかったと思います。



インタビューに応じてくれた角盈男氏（写真右）と石毛宏典氏（写真左）



同年齢ということもあり、和気あいあいと語る両氏。石毛氏が「3連戦、3連勝と行きましょう！」と叫ぶと、角氏がすかさず「空回りしてほしい（笑）」突っ込む一幕も

初日は80人ほどのファンが参加して行なわれたレジェンド・エクスプレス・ツアー。降車する際の参加者は一様に笑顔で、車内の楽しさが伝わってきた。駅を出る際もスタッフに「今年だけなの？ 来年はやるの？ やるなら絶対にまた申し込む」と話しかける参加者の姿もあった。